

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470800885		
法人名	株式会社 森伸		
事業所名	ケアパートナー森伸小俣		
所在地	三重県伊勢市小俣町明野1308番地		
自己評価作成日	平成27年11月14日	評価結果市町提出日	平成28年1月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470800885-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470800885-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 27 年 12 月 1 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・できる限りご入居者及びご家族の意思を尊重させていただいています。(夜間でも空腹の訴えがあれば、健康上支障のない様考慮し軽食などご用意しております。)
- ・いつも明るく穏やかな雰囲気です。・一人一人と関わりを多く持っています。
- ・ご家族・知人の面会が多く(1ヶ月平均41名)ご家族の協力がよく得られています。
- ・常時看護師に連絡ができるので急な体調の変化にも対応ができます。
- ・全介助の方でもゆったりと生活していただいています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近鉄線明野駅から徒歩3分の便利の良い住宅地に有る事業所で、家族の面会も多く、利用者・家族・職員が『ただいま、おかえりなさい』の挨拶、そして笑い声と笑顔の有る家庭的な雰囲気の中で利用者が安心して生活をしている。管理者と職員が事業所理念の「寄り添い共に生きる」を共有しながら利用者の支援をしている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念『1人の人を大切に』、CPGHの理念『寄り添い共に生きる』をもとに、職員全員が共有し日々の介護に取り組んでいる。	「一人の人を大切に」の企業理念と、グループホームの理念「その人を想い、寄り添い、共に生きる」に基づき、全職員が理念を共有しながら家庭的な雰囲気の中での支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気のよい日には近隣散歩に行き、地域の方と挨拶などかわりを持つようにしている。自社の便り等を近隣に配布している。	施設だよりの配布、近隣住民への施設行事への案内や声掛けにより地域の方が参加してもらっている。こちらからは地域の祭りや公民館の行事に参加している。また、中学生や明野高校福祉学科の実習生や地域のボランティアを受け入れしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校福祉課の研修受け入れや、中学生の職場体験・見学の受け入れ、認知症サポーター養成講座を学校や地域で行い、認知症の方への支援や理解を広めている、		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度運営推進会議を開催し、ご入居者の状況・活動報告を行い意見交換を行っている。	年6回、定期的に利用者家族・自治会長・地域包括支援センター職員の参加で開催し、意見交換を行い意見や提案を事業所の運営に活かしている。	運営会議に地域住民代表として自治会代表だけでなく、消防団・老人会・婦人会・駐在所の警官等多くの立場の方の参加について考慮する事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員の方も参加して頂き、ご入居者の状況、ご家族とのコミュニケーションの場に参加して頂き話し合いを行っている。	運営推進会議時に地域包括センター職員と情報交換をしたり、事業所運営について話し合っている。また、市役所を訪問した時に担当職員と情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の部署会議で、身体拘束にならないような方向を検討し話し合いを行い実践につなげている。	法人が実施する職員研修に参加し、身体拘束及びプライバシー保護等について研修をしている。また、部署会議等で常に身体拘束について話し合い、職員間で言葉による拘束を含め、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議での話し合いを行い安心・安全・安楽な方法を話し合い虐待のないように努めている。また外部研修に参加、関連のある研修等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を実施し学ぶ機会をもうけている。制度を利用しているご入居者もあり、職員は身近に制度を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に記載されている事は、口頭でもご説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議等でご意見を伺っている。面会時に職員に伝えてもらった事も、管理者へ必ず報告し管理者はご意見をもとに運営に反映している。	面会時や家族会議、運営推進会議、家族アンケートでの家族の意見や要望を部署会議に諮り事業所の運営に活かしている。面会の少ない家族には電話で意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議内で意見交換をしたり、個人面談時以外にも個々に意見や提案を聞いている。	管理者とリーダーを除く中堅職員4名の運営委員が、日常の支援や業務での職員の思いや提案を取りまとめ部署会議に諮っている。管理者とメールで意見交換も出来るようになっており、職員の提案や要望が事業所運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は自己評価を行い自身のレベルを意識している。個々に目標を定め達成出来る様アドバイスしている。個人面談で実績を直接伝え、やりがいを持てる環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修はもちろん外部研修の案内を行い、個人の意欲を引き出し積極的に参加する職員も多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し他事業所職員と交流を行っている。他部署との交流も勉強会などを通じ行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前にも何度かお話しを伺っている。言葉だけでなくその時の表情・しぐさ等も観察し記録に残している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、サービス開始前から何度か話しを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居されて2週間は本人の様子を細かく記録を残し情報共有している。ご家族からも話しを伺い施設などの様子と照らし合わせその方を知るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お1人お1人出来ることを見極め、こちらが出来た事までしてしまわないように気を付けている。その方が得意な事等は積極的にして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来て頂いた際ご本人の様子をお伝えしている。一方的に話しをするのではなく、ご本人も交え一緒に話をさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方だけでなく知人の方でも面会に来て頂いても大丈夫なことを伝えている。こちらに来て頂く事が困難な場合は外出支援の一つとして考え対応している。	利用者との日々の会話や関わりから行きたい所探しに取り組んでいる。馴染みの美容院や神社、スーパー等への外出支援をしている。また、希望する場所へ個別にドライブに行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者お1人お1人の性格を把握する事によりよい関係が築けるようサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了されたご家族も運営推進会議のメンバーに入って下さっており、そのような場でも話を伺うよう等している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつも日常会話でご本人がどのような暮らしをしたいのか伺っている。ご本人に聞き出せないときにはご家族に情報提供をお願いしたり、職員が表情などから読み取っている。	日頃の会話や表情から、利用者の思いや意向の把握に努めている。把握が困難な利用者については、言葉の記録を参考に職員間で協議しながら利用者の思いや意向を把握し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境については入居時に詳しく記載されたセンター方式を見て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしくその人が望む生活が持続出来る様支援の仕方や会話の中からご本人の思いをくみ取り日常の生活に反映している。ご家族から昔の馴染みを伺っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族からの希望を伺い管理者等で話し合っている。モニタリングを行い新たな意見を集めたり現状に即した介護計画を作成している。	部署会議や職員ミーティングで話し合いを持ち、管理者と計画作成者で介護計画を作成している。月1回担当職員がモニタリングを実施している。3ヶ月毎に管理者と計画作成者で評価し、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分チェック表等その日の状況を記録している。チェック表を見ながら職員間その日の変化を話し合い情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援等様々な事に取り組んでいる。例えば会話の中からご入居者の希望要望をくみ取り外出支援・買い物支援等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高校生・中学生が実習に来て下さり行事(散策・防災訓練など)に参加して頂いたり、定期的にボランティアが来館し交流をはかっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の希望を大切に、提携医と連絡をとり病状に即した提携医を受診出来る様支援している。また毎月の定期診療を行っている。	協力医が利用者全員の主治医になっており、月に1回往診に来てもらっている。歯科医から週1回の定期検診があり口腔ケアの指導を受けている。他科の診療については家族と相談し職員が同行し受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりや入浴などで表情や身体の異変みられたらすぐに看護師と連携をとり適切な処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居時には症状・状態等の情報交換を行い迅速に対応出来る様努めている。かかりつけ医との連携をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から話し合いを行い、週末期に向けた方針を決め、少しでもその方らしい週末期が遅れるよう支援している。	契約時に看取り看護・介護について説明し、利用者・家族の理解を得ており、重度化した場合、協力医・看護師・家族が話し合い看取り看護・介護についての契約書を交わしている。看取りの経験も有り、看取り介護や看護について職員間で話し合いをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居時の研修及び社内研修・部署会議等で応急手当や初期対応の訓練を行っている。マニュアルをそろえ日ごろから看護職から支持を上げる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の防災訓練と安否確認メールの訓練により避難方法・避難経路を確実にし、災害時に対応が出来るように努めている。	年3回、地震・津波・火災等の防災訓練を実施しており、夜間火災を想定した訓練も実施している。また随時職員会議時に、防災についての机上訓練を実施し、災害時の避難・誘導等について話し合いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の言葉をきちんと伺いその方の思いも尊重している。	居室への入退室での言葉かけやトイレ誘導時の声掛け等、利用者一人ひとりに合わせ対応している。利用者の表情や行動を把握し、誇りやプライバシーを尊重しその人に合った支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の声かけに、皆で相談しよりよい支援が出来る様努めている。またその方の意思表示えお尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方その方の良い表情を大切に、その情報を職員で共有し出来る限りその人らしい暮らしが出来る様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	就寝前・起床時、外出される時、他者から見ても女性らしい身だしなみが出来ている様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食ごとの話の中で、その人の好みの食べ物も率直に話して頂ける雰囲気を作り、職員も交じり準備や食事を行っている。	盛り付けや片付けを手伝う利用者が3名いる。昼食は業者発注の食事で、朝食と夕食は職員と利用者が交替で買い物に行き利用者の希望を聞きながら調理している。職員と利用者が会話をしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の健康状態をしっかり見極め食材や形態を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアが可能な方はご本人に行って頂き、出来ない方は口腔ケアの支援をしている。また提携歯科医とも連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し排泄失敗を避けるように早めのトイレ誘導を行い、出来ることはご自身でして頂いている。	排泄チェック表で利用者個々の排泄リズムを把握してトイレへの声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄について支援している。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立を考える時に食物繊維豊富なものを選んだり、水分摂取にもなるゼリーをお出ししたりと工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のこだわりをひとりひとり把握し、ゆっくり気持ちのよい入浴を行っている。午後からの入浴希望があれば入居者の気持ちにあわせ午後から入浴して頂いている。	週に2回、午後に入浴をしている。ゆず湯で季節感を味わってもらったり、利用者の希望を聞いて入浴剤を使った入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間よく休まれるように室温調整や温かいお茶をお出しし落ち着いて頂けるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師・医師と連携し、職員でもわかるよう記載してある。薬の効果が減ってしまう食事等は控えさせて頂いている。また飲み忘れ飲み残しなどない様支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者も交えて家事を行ったり、高校生との交流等を行い良い刺激のある日々を過ごして頂けるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望地へのドライブを行うようにしている。会話の中から好きなお店・行って見たいところを伺っている。	事業所の周辺をボランティアの高校生と散歩を楽しんだり、防災訓練で通る道を散歩したりしている。また、週2回、近くのスーパーへ食材を買いに交替で出掛けている。イベント等での花見や利用者の希望する場所へのドライブにも出掛けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が希望があるとき等、職員同行し衣類・必要品等買い物に行っている。スーパーへの買い物に行って頂き食品購入のお手伝いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話で話されている。面会が多いご利用者も多く、直接お話しされる方も多い。ご家族から携帯電話をお預かりしているご入居者もみえる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾りつけを過度にならない範囲で行い季節を感じて頂けるようにしている。物を乱雑に置かないように、常に整理整頓を心掛けている。	居間兼食堂は広くてとても明るく、利用者が寛げるようにソファや畳が置いてある。食堂のテーブルや椅子、ソファ、畳等は利用者の動線を配慮し動きやすいように配置をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員と1対1の時間を作ったりご入居者同士が楽しんで頂けるよう職員が橋渡し行ったりし過ごしやすい環境作りを行っている。ご自分の好みの場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子など使い慣れたものを使われたり、ご家族の写真や好みのものを飾ってみえたり、居心地よく過ごして頂ける様にしている。畳に慣れている方は畳を敷かれている。	居室はとても明るく、掃除も行き届き、整理整頓されている。使い慣れたタンスや椅子が置いてあり、家族や行事等の写真が掲示してある。また、ぬいぐるみや思い出の作品が置いてあったり、仏壇を置いている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごして頂ける様室内には呼び出しコールやトイレは使用しやすい高さにあわせている。トイレや風呂場、食堂・廊下に手すりを設けてある。少しでも自立を目指せるよう支援に努めている。		